

子どもの病気と ケアのポイント

ポイントをおさえて早めにケアをしましょう。



発熱

子どもの免疫がウイルスや細菌とたたかって
いることを知らせる大切なサインです。

観察のポイント

- 体温の変化を記録しましょう。
- 発熱以外の症状がないか。

ケアのポイント

- 手足が冷たければ、温めましょう。



- 手足も熱ければ、薄着にしましょう。
- 氷枕をしたり、大きな血管のあるわきの下などを冷やしましょう。
- 汗をかいたら着替えさせましょう。
- 子どもは脱水症になりやすいので、こまめに水分を飲ませましょう。
- 解熱剤の使用は、かかりつけ医のアドバイスにしたがいましょう。

咳

のどや気管支の粘膜についたウイルス、細菌
やほこりなどを体の外に出そうとして起こる反
応です。

観察のポイント

- いつ、どんな咳をしているか。
- ゼーゼーいったり、機嫌が悪い時は熱がなくても早目に医療機関を受診しましょう。

ケアのポイント

- 安静にしましょう。
 - こまめに水分を飲ませましょう。
- ※0～1歳児で重症化しやすいRSウイルス感染症は、冬季に保育園で流行しやすいため、注意しましょう。



下痢

夏には夏かぜ、秋から冬にはノロウイルス、
春にはロタウイルスによる胃腸炎が流行しま
す。回復後もウイルスは便の中に数週間排泄
されるので、おむつ交換の後、手洗
いをしっかりしましょう。

観察のポイント

- 便の性状、色、量、回数。
- 発熱や嘔吐がないか。



ケアのポイント

- 子どもは脱水症になりやすいので、水分を少量ずつこまめに飲ませましょう。
- 食欲がない場合は、無理に食べさせる必要はありません。回復してきたら消化のよいものを少量ずつから開始しましょう。
- おむつをしていると、おしりがただれやすいので、清潔にしましょう。